

伝えなかった
想いをここに

大切な人へ

第64回

助産師・患者期保健相談士 後藤 敬子 先生

子どもとの15年間で見つけたものは何ですか？

出産後、彼女は子育てで不安になると相談に来ては、よく泣いた。首のすわりが遅い、発語が遅い、歩きが気になる…など、健診で指摘を受けると「親の愛情不足かな？」と自分を責めた。小学校に入ってから、授業に集中しない、落ち着かない、忘れ物が多いなど、学校での様子を聞くと「どうしよう」と落ち込み、息子の未来を案じた。

そんな彼女に少し変化が現れたのは息子が7歳の正月休み。遊んでばかりの息子を何度も促しやっとなってきた宿題は、丸付けをしようにも読み取りにくい文字が並んでいる。「これじゃ丸付けできないよ。誰でも読める字を書かないと全部バツ！」母親はヒステリックに感情をぶつけ、書いた文字を全部消した。息子は「ごめんさい」と泣きながら「頑張る」と書き直した。その姿を見つめながら彼女はふと、自分

も字が下手で母を困らせたことを思い出したという。「怒ってごめんね。ママも字を書くのが苦手だったんだ。今日はこれで最高！よく頑張ったね」そう声をかけると、一人で笑い合えた。

後日「気持ち伝えるって難しい！一生懸命書いたのに叱りすぎてしまった」そこには悩みつつも笑顔の彼女がいた。「百点満点の母親っているのかな？失敗を許し合って、笑い合う。これで十分。今後は楽しく書道なんでしょうか？」と話した。

その後も紆余曲折を乗り越え、その子は中学2年になり、身長も成績もぐんと伸びた。生徒会長に立候補し、選挙ポスターの名前を毛筆で書く、自己肯定感の高い優しい子に育ったという。自己肯定感も自信もすぐに育たない。15年という時間をかけて、親子はゆっくりと、素敵に成長していったのです。

日本海と大地がつくる 水と命の循環

鳥海山・飛島ジオパーク

リレーコラム

第137回

閩観光物産課にぎわい創出事業係
☎26-5759

防災気象情報の運用方法が変わりました

令和8年5月29日から、気象庁の防災気象情報の運用方法が大きく変わりました。新しい気象情報には、気象情報に警戒レベルの深刻さに応じた5段階の数字が付いています(表参照)。また線状降水帯や集中豪雨の発生は「気象防災速報(線状降水帯発生)」や「気象防災速報(記録的短時間大雨)」として発表されます。

防災気象情報は「今の状態」ではなく「今後起こり得る状態」を表しています。例えば「レベル3警報」は数時間〜3時間後に警戒すべき状態に「レベル4危険警報」は2時間〜0時間後に危険な状態になる、という意味です。そこで「レベル5特別警報」は既にどこかで災害が発生している可能性が高く、切迫した状況にあることを発信しています。「レベル3」「レベル4」が避難のタイミング

グです。発表される防災気象情報を目安に、適切な行動をとります。

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

▲防災気象情報一覧表

◆気象庁のホームページより引用。

「洪水注意報」「洪水警報」はなくなりました。



気象庁
ホームページ



一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク 推進協議会事務局 次長兼主任研究員 大野 希一氏